

自動運転トラックによる 酒類・飲料の幹線輸送実証に参画

— 酒類・飲料業界の持続可能な輸送体制の構築を目指す —

サントリーホールディングス（株）（代表取締役社長 鳥井 信宏）および傘下のサントリーロジスティクス（株）（代表取締役社長 高橋 範州）は、（株）T2（代表取締役CEO 森本 成城、以下「T2」）が2025年6月9日（月）より開始する自動運転トラックを用いた酒類・飲料の幹線輸送^{※1}実証に参画します。

※1 工場で生産された商品を全国の配送拠点に主要な輸送ネットワークを通じて効率的に運ぶこと

本実証には、アサヒロジ（株）（代表取締役社長 児玉 徹夫）、キリングループロジスティクス（株）（代表取締役社長 小林 信弥）およびサッポログループ物流（株）（代表取締役社長 服部 祐樹）も参画（サントリーロジスティクス（株）とあわせて以下「4社」）します。4社は、関東から関西までの高速道路の往復路で製品容器や重量を変えてそれが幹線輸送し、自動運転トラックによる輸送の有効性と具体的なオペレーションをT2と検証します。



この高解像度画像は <https://www.suntory.co.jp/news/index.html> に掲載しています。

物流2024年問題を背景にトラックドライバー不足が深刻化し、2030年には輸送能力の34.1%が不足する可能性が指摘^{※2}される中、T2は2027年からレベル4^{※3}自動運転トラックによる幹線輸送の開始を目指しています。レベル4自動運転トラック（無人）の場合、1日最大15時間と定められているドライバーの拘束時間と無関係に運行が可能なため、ドライバー1人あたり1日1運行（片道）が限界だった現状の輸送能力を、将来的には2倍（往復）まで高めることができる^{※4}と見込んでいます。

※2 経済産業省開催「第3回持続可能な物流の実現に向けた検討会」における「物流の2024年問題」の影響について
株式会社NX総合研究

(https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/sustainable_logistics/pdf/003_01_00.pdf)

※3 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態 (<https://www.mlit.go.jp/common/001226541.pdf>)

※4 東京－大阪間の高速道路の運行に6時間がかかると想定した場合

酒類・飲料業界は、他業界に比べて輸送量およびトラックの運行数が多く^{※5}、特に需要が高まる季節はドライバーの確保が困難になる事態も予想されるなど、輸送能力の低下により消費者への製品供給が遅れるリスクが高まっています。今回、こうした社会問題の解決につなげるため、T2が開発したレベル2^{※6}自動運転トラックを用いて製品を幹線輸送する実証に参画することになりました。本実証を通じて、物流2024年問題への対応を強化することで、持続可能な物流の実現を目指します。

※5 経済産業省・国土交通省・農林水産省調べ「我が国の物流を取り巻く現状と取組状況」
(https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/sustainable_logistics/pdf/001_02_00.pdf)

※6 ドライバーの監視のもとに行われる特定条件下での高機能自動運転
(<https://www.mlit.go.jp/common/001226541.pdf>)

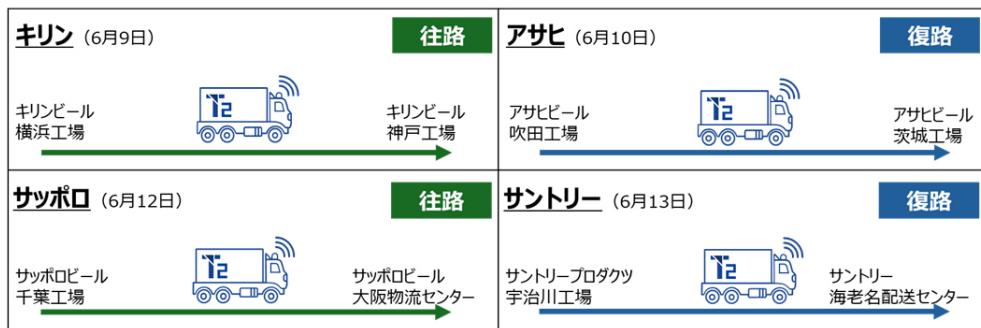
【実証概要】

〈日程〉 2025年6月～11月の期間中、計16回（8往復）を予定

〈場所〉 関東・関西間の高速道路上の一部区間で実施

〈6月の実証ルートおよび日程〉

1. 往路：キリンビール横浜工場→キリンビール神戸工場
復路：アサヒビール吹田工場→アサヒビール茨城工場
2. 往路：サッポロビール千葉工場→サッポロビール大阪物流センター
復路：サントリー プロダクツ宇治川工場→サントリー 海老名配送センター



この高解像度画像は <https://www.suntory.co.jp/news/index.html> に掲載しています。

〈6月の積載物の一例〉

アサヒ「アサヒスーパードライ」、キリン「キリン一番搾り生ビール」、
サッポロ「サッポロ生ビール黒ラベル」、
サントリー「サントリー クラフトボス ラテ」



この高解像度画像は <https://www.suntory.co.jp/news/index.html> に掲載しています。

〈役割〉

- ・ T 2 : 全体マネジメント・実験用車両の提供
- ・ 4 社 : 実証貨物の提供および積載

〈検証内容^{※7}〉

- ・ 貨物を積載した幹線輸送における自動運転の走行ルート、走行リードタイム
および物流品質の検証
- ・ 想定したオペレーションパターンの有効性検証

※7 すべての実証はドライバーが乗車し、レベル2相当で実施

▽本件に関するお客様からの問い合わせ先

サントリーお客様センター <https://www.suntory.co.jp/customer/>

以 上

水と生きる SUNTORY

自然と水の恵みに生かされる企業として、貴重な水資源を守ること。

さまざまな企業活動を通じて社会に潤いをもたらし、社会にとっての水であること。

社員一人ひとりが水のように自在にしなやかに挑戦できる会社であること。

「人間の生命(いのち)の輝き」をめざす想いを、「水」に託して伝えるメッセージです。